

震災の本、そして未来へ

～3.11 を風化させないために～



学習院大学図書館 1 F 展示

Contents

はじめに

1. ニュースで目にしないこと 3.11 について
2. 福島でおきたこと 原発について
3. これからの日本を生きる 未来について

おわりに



はじめに

2011年3月11日、私たちは、今までに経験したことのない恐怖を味わいました。

一瞬のうちに、三陸の町が津波にのまれ、家々は破壊され、たくさんの人々が犠牲になりました。電気・水道・ガスは止まり、避難所生活を余儀なくされました。

都心では、大きな揺れに対し、多くの人々が帰宅困難になりました。原発事故に、私たちは混乱しました。経験したことのない放射線という目に見えない脅威に、私たちは恐怖を感じました。

この時期だからこそ、あの時何が起きたのか、そして、今はどういった状況なのか、これから日本はどういった方向に向かうのか、もう一度3.11を見つめ直す機会です。

日本人としてあの時のことを忘れず、そして後世にも語り継いでいくために、知っておかなければなりません。

1. ニュースで目にしないこと 3.11 について

1年半以上が経過した今でも、被災地では多くの困難と不便があります。たとえば、沿岸の地域では、新しく建物を建てることができません。半壊の建物を修理するか、仮設の建物を建てることしかできません。仮設の家、学校、商店、不便なことだらけです。

2012年の夏、仮設の学校では冷房もなく、気温は40℃を上回りました。

タイトル / 出版社	請求記号
『東日本大震災全記録：被災地からの報告』 河北新報社	369.3A/H55h
『東日本大震災：報道写真全記録 2011.3.11-4.11』 朝日新聞出版	369.3A/A82h
『東日本大震災：読売新聞報道写真集』 読売新聞社	369.3A/H55h
『河北新報のいちばん長い日：震災下の地元紙』 文藝春秋	369.3A/Ka19k
『再び、立ち上がる！：河北新報社、東日本大震災の記録』 筑摩書房	369.3A/Ka19f

2. 福島でおきたこと 原発について

3.11の最大の「影」は、福島第一原子力発電所の事故でした。事故の影響で、福島は岩手・宮城に比べ、立入自体が制限されたり、人が集まらなかったりして、被災3県の中でも特に復興が遅れています。この事故をきっかけに、エネルギーに対する考えが大きく変わりました。安全・安心と謳い国策として推進した原子力は、もはや神話となり、私たちの政府に対する見方も大きく変更させられました。当たり前のように、消費しているそのエネルギー自体も実は、有限で貴重なものであることに改めて気づきました。そして、現在、脱原発を主張する抗議行動が全国各地で起きています。

タイトル / 著者	請求記号
『検証!福島原発事故の真実』 学研パブリッシング	543A/Ke51k
『福島の原発事故をめぐって:いくつか学び考えたこと』 山本義隆	543A/Y31f
『反核から脱原発へ:ドイツとヨーロッパ諸国の選択』 若尾祐司, 本田宏編	539A/W25h
『原発危機官邸からの証言』 福山哲郎	B1/7/974//K (法経図書センター)
『原発再稼働「最後の条件」:「福島第一」事故検証プロジェクト最終報告書』	543A/O61g//K (法経図書センター)
『いまこそ私は原発に反対します。』 日本ペンクラブ編	543A/N71i//K (法経図書センター)

3. これからの日本を生きる 未来について

これからの社会のキーワードは、「ソーシャル化」。その鍵を握るのは、急速に拡大を続けるSNSでしょう。震災(災害)復興においてどう活用するかが注目されています。

タイトル / 著者	請求記号
『震災に負けない!Twitter・ソーシャルメディア「超」活用術』	PCguide/2011
『災害とソーシャルメディア : 混乱、そして再生へと導く人々の「つながり」』	007.3A/Ko12s

不景気、就職難、震災...先の見えない日本。そんな暗い世の中に、一輪の花が咲くように、部屋の中に差し込む朝陽のように、希望を抱ける小説の世界をご紹介します。

タイトル / 著者	請求記号
『神の子どもたちはみな踊る』 村上春樹	913.7/1080
『宮沢賢治』 宮沢賢治	910.8/22/3

おわりに

復興が完了するには、長い時間がかかります。そして、多くの課題と難題が山積しています。

私たちは、多くのものを失いました。しかし、その代償に新たな価値観を手に入れたのかもしれませんが。

自分で声を上げ、自ら行動する人々の姿がありました。

全てを失い、前に進む人々の姿がありました。

確実に言えるのは、何か自分で強く思って実行に移せば、それは実現できるということです。私たちは、今まで国、政府、地方自治体、企業、組織-他人のせいにして、目の前で起きていることに対して、自分で解決しませんでした。

ある岩手県の方はこうおっしゃっていました。

「津波が全部流してくれて、ある意味、オレたちがゼロからスタートするきっかけになった。」

この震災は、私たちが生きるという重要なテーマについて、見つめ直す契機であるのかもしれませんが。

震災の本、そして未来へ

平成 24 年 10 月 15 日発行

経済学部経済学科：田代直樹
(震災復興ボランティア「田代ジャパン」代表)

<http://tashiro-japan.jimdo.com/>

経済学部経営学科：新井凌

情報サービス課：内藤

本冊子は大学図書館ホームページでも公開しております

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/collection/display.html>